

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	有限会社ナイスケア グループホームひまわりの家 2階	評価実施年月日	平成20年9月1日～5日
評価実施構成員氏名	三浦朋美 佐藤 彰 押切直美 二村仁美 塚本真理 佐藤真喜子 野田竜己 高松誠 白坂法子		
記録者氏名	三浦朋美	記録年月日	平成20年9月10日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>理念に「私もあなたも同じ人間としての普通の生活をし、あたり前に生きよう」と掲げ取り組んでいる。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>各ユニットに理念を掲示しており、ユニット会議等で理念に基づいたケアについて話し合っている。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>毎月発行しているたより「ひまわり新聞」に理念を載せてご家族に配布し、運営推進会議でご家族や地域の方に理念を理解して頂くように取り組んでいる。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>町内の各行事に参加したり、グループホームの行事に参加してもらうことにより、利用者さんと町内の方が顔見知りになり互いに行き来するようになってきている。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内の老人クラブの行事(旅行・誕生会等)やゴミ拾いお祭りへの参加をしたり、市や近隣の自衛隊行事への招待を受けている。近所の住民の方々との協力を頂き、その方々とバスに乗り趣味のサークルに出かけたり、パークゴルフやゲートボールに毎週2回出かけていく利用者さんもいる。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>町内の民生委員や婦人部の方々に、町内の独居の方や日中一人で過ごしている高齢者の方々にグループホームへ連れてくるようお願いしている。(特に行事がある時は必ず依頼している。)</p>		<p>行事などで顔見知りになり、お一人で遊びに来る方も増えた。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価及び外部評価は各ユニットにファイルして配布しておき、職員がいつでも目を通せるようにしている。ユニット会議で報告し、意見交換をして改善に繋げるため努力している。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	入居状況や行事・事故等を報告し、話し合いを持っている。質問については真摯に答え、頂いた意見をサービス向上に繋げている。	○	都合が合わずご家族の参加が少ないので、もっとご家族が参加できるように取り組みたい。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市の地域包括ケア会議に毎回参加している。必要な時は連絡をとり、相談や情報交換を行っている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	制度については理解している職員もいるが全員が理解している訳ではない。	○	今後研修へ参加したり、学習機会や説明に取り組んでいく。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束廃止委員会を設置している。会議の中で話し合う機会を設けている。		言葉や態度(無視等)の虐待も含め、職員は話し合っている。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際には必ず契約書・重要事項説明書を渡し、十分に説明し理解納得の上で契約して頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 ○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者さんの言葉や態度からその想いを察する努力をし、利用者さん本位の運営を心掛けている。ひとりの不満を受け止めることが、事柄によっては他の方々の不満に繋がらないよう見極め、職員はその都度話し合いを行う。</p>		<p>ホーム内に苦情等の受付として市役所の電話番号を、利用者さん・ご家族・来訪者の目につくように掲示している。</p>
<p>14 ○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>日常の暮らしぶりは管理者・職員により来訪時や毎月のたよりの配布により行っている。また、健康状態に異変があった時等は速やかに家族に報告している。金銭管理は月末に領収書と共に明細を知らせている。</p>		
<p>15 ○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご家族には訪問時や電話で話したときなどに、常に問いかけ何でも言ってもらえるような雰囲気作りに努めている。また、重要事項説明書に苦情窓口の案内を載せている。</p>	○	<p>不満や苦情等、口頭では言いづらい事があるかも知れないので、ご意見箱のようなものの設置を考えている。</p>
<p>16 ○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>ユニット会議や全体会議を開き、意見を出し合っている。運営者は職員の意見や提案を受け入れ、反映させるよう努めている。</p>		
<p>17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>職員に説明し話し合い、利用者さんの身体状況や生活状況に合わせ、必要に応じて職員の勤務調整している。</p>		
<p>18 ○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>職員の移動・離職時の利用者さんへのダメージを防ぐ配慮をしている。また、両ユニットの交流により、他ユニットの職員とも馴染みの関係になるよう配慮している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内研修・採用時の個別研修を実施している。外部研修を順次受講できるようにしている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	市のケア会議に出席し、他の同業者と交流している。	○	同じ町内にあるグループホームに訪問し、交流を深めたり合同勉強会等を提案しようと計画している。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	休憩時間を決めて各自取っている。休憩室は事業所の事務所や玄関先の喫煙所となっている。毎月ではないが、全員に有給休暇を使ってもらいリフレッシュ休暇としている。不定期だが食事会を開いてストレスの軽減に努めている。		
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	職員がやりがいを持って働けるように運営者・管理者は職員の意見をいつでも聞ける時間を持つよう努めている。		各種資格取得のためのテキストの提供や、それに向けて運営者も含めての勉強会を開いている。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前に出来るだけご本人と面談を行い、ご本人のニーズや課題・不安等を受け止めるように努めている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	どんな相談も受け入れ、ご家族のニーズを明確にしホーム側の意向を説明して、理解頂いたうえで入居手続きを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人にとって一番良いこと・必要なことは何かを常に考え対応している。もし今の段階で他のサービスが必要ならば情報提供している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に見学を勧め、可能であれば数回来てもらう。入居後は個別に判断して様々な工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	各利用者の好み・能力に応じた活動を、その時の気分を考慮しながら一緒に行っている。経験豊かなお年寄りから教えて頂くことを大切にしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人・ご家族に安心して頂ける事を基本に考えている。ご家族の想いを聴き、一緒にご本人を支えていく関係である。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご本人やご家族の状況を見極めながら、外出や外泊で家族と過ごす時間を作ったり、行事へお誘いしている。		家族が疎遠になっている場合、修復に向けて取り組んでいる。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人の行きたい場所に同行したり、近所ならば散歩中に家を見に行ったり、遠方であればご家族に相談している。		前職が学校の先生だった方には、近所の中学校の承諾を得て、好きな時間に校内に入れて頂いたり、自衛隊だった方は自衛隊の衛門の前まで行ったりなどしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者さん同士の関係を把握し、行事やレク・お茶の時間等を利用して、職員も中に入り関わりが深まるよう支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院のためやむなく退去された方のお見舞いに行くなど、関係を断ち切らない対応をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で言葉や表情の中から把握に努めたり、真意を推し量ったりしている。意思疎通の困難な方は職員の関わりの中から会議等で利用者さん本位になるよう検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前にご本人及びご家族から聞き取りをし、出来る限り情報を集め職員と共有している。入居前のサービス利用についても、可能である場合はサービス提供者から情報を得ている。入居後もご本人・ご家族との会話の中で小さな事柄でも情報を伝えてもらった時には職員と共有している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	生活アセスメントシート記録・連絡ノート・申し送り・会議等でご本人の1日の過ごし方・生活のリズム・心身状態・有する力を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	希望やニーズをご本人に聴いて確認し、日々の関わりの中で想いを理解し、ご家族には来訪時に希望や想いの聴き取りに努め、必要であれば主治医に相談したうえで会議に反映させるようにしている。		本人が心から笑っていられるような時間を少しでも多くできる介護計画作りに取り組んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状態の変化の情報を確認した場合は、修了する前であっても検討・見直しをするようにしている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別のアセスメントシートを使用し、記録している。職員全員で共有し、実践に繋げている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご本人・ご家族の状況に応じて通院送迎等必要な支援をしている。利用者さんの柔軟支援はもとより、ご家族に対しても相談を受け付けるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	近隣の学校から訪問があったり、警察官がパトロール中に立ち寄ってくれる。町内の民生委員の方も度々顔を出してくれる。定期的に踊りの会の方が慰安訪問してくれる。消防機関とは避難訓練を通して連携を図っている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	訪問リハビリや訪問看護、訪問理美容を利用している。	○	今後も必要に応じて他のサービスを利用するための支援を検討している。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議への出席や認知症についての講演・権利擁護についての説明などを通して協働している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	受診や通院はご本人・ご家族の希望に応じている。職員が代行し結果を家族に報告することが多いが、遠方の病院はできるだけ家族に協力を頂いている。利用契約時に主旨を説明し、同意を得ているホームの協力医院の定期受診を受けてもらい、主治医から専門医の受診を勧められた場合にはご家族と相談・検討している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	地域に認知症の専門医はいないが協力病院に神経内科があり、訪問看護を通して相談・受診している。また、精神科や脳外科も必要に応じて受診している。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	協力病院の訪問看護を利用している。看護師は利用者の普段の生活や健康状態等を把握している。急な発熱や体調不良時の判断・相談を24時間電話で対応してくれている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院された際にはホームでの生活や既往歴・服薬に関する詳しい情報を提供し、医療機関と連携を取っている。早期退院に向けて、ホーム受け入れ態勢等を伝え、主治医や訪問看護師にも相談している。必要に応じて医療機関同士が連絡を取っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	ご家族に対して、ホームとして出来ることを指針として掲示し同意をえている。	○	職員全員が対応できるように教育が必要である。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	終末期の指針を作成し、ご本人の想いを最重要としながらご家族と話し合いのうえで方向を決め、かかりつけ医院と連携の中で最良の方法を取っていく。	○	今後の対応に備え職員の資質向上等の準備を行っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>住替えの際には、ホームでの生活の経過を情報提供し、新生活のダメージを最小限に抑えるよう努めている。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>勉強会や会議の際、職員の意識向上を図ると共に利用者さんの誇りやプライバシーを損ねない対応を心掛けている。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>自己決定を大切にしている。日常生活の中で個々の力に合わせて利用者さん自身が決定する場面を作っている。表情をよく観て言葉に出ない想いを受け止め、真意であるかどうか見極められるように努め支援している。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>基本的な1日の流れは作っているが、利用者さんのペースに合わせた支援を心掛けているが、ホームの業務が先行している場面もある。</p>	○	<p>日常業務の見直しと支援体制の見直し。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>その日に着る物やお化粧品等は、ご本人の希望するようにして頂くことを基本としている。自己決定が困難な方は職員と一緒に決めている。理美容は希望のお店がある方は行ってもらっている。盆踊りや夏祭りには浴衣を着たり、行事に合った服装を提案して本人の希望を聴いたり、外出時におしゃれを楽しんで頂けるよう支援している。</p>		<p>何人かのご家族と相談して、いつでも着られるよう着物を持ってきてもらった。</p>
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>料理の得意な利用者さんには下ごしらえや調理を手伝って頂いている。利用者さんにリクエストを聞いたり、ホットプレートや携帯ガスコンロを使い座ったまま調理して頂いたりして準備や食事を楽しめるように努めている。</p>		<p>季節のイベントや誕生会には行事食として楽しんでもらったり、時には外食や出前を取って気分を変えてもらっている。昔馴染みの料理を利用者さんに教えて頂きながら、みんなで作ったりしている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	できるだけ本人の嗜好を楽しめるように、ご家族や主治医と相談しご本人にも説明・納得頂いて楽しめるよう支援している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	時間や習慣の把握に努め、個別の生活アセスメントシートの記録により、必要であれば誘導している。		ご本人が苦痛に感じるような無理な誘導やオムツの使用はしないように努めている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	基本的には入浴したい日、希望する時間に入浴をして頂くようにしている。		健康状態が不安定な方は往診日や訪問看護日に入浴して頂いている。また、以前入浴後に急変された方がおり、入浴のリスクを話し合い、日・祝日にはかかりつけ医院が休みのため、極力入浴を控えるようにしている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	生活習慣に合った対応を心掛けている。前日や日中の個別の疲労なども考慮し、起床時間・日中の休憩時間・就寝時間の配慮をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個別の得意分野で楽しみながら力を発揮してホームの仕事や外出などをしてもらうように努めている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	希望される方は家族と相談し、だいたいの金額を決めてご自分で財布を所持して貰っている。その他の方は運営者・管理者が預かり、外出などの場面にお財布を手渡し各自持って頂いている。		職員は財布のある場所やだいたいの金額を把握し、情報を共有している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気やご本人の気分に合わせて外出を日常的にしている。		歩ける利用者さんに車椅子の方の散歩をお願いしたり、外での作業を用意して仕事をしてもらうなど戸外への誘い出しを工夫している。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	お花見や観光地に出かけたり、家族との旅行を支援している。		町内の老人クラブに所属している利用者さん3名が、会社代表者の同行で2泊3日の旅行に何度か参加している。できる限り継続していきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	ご本人が自由に電話や手紙のやり取りが出来るように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族はもちろん知人友人いつでも気軽に訪問できる雰囲気作りに努めている。職員は気持ちの良い挨拶をすることを心掛けている。		入居時、ご家族にいつでも食事を食べに来てくださいと勧めたところ、毎週昼食と一緒に食べに来られるご家族や、学校帰りのお孫さんと居室で食事を摂られる利用者さんもいる。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	会議等で、職員が自覚しない身体拘束が行われていないか振り返り、話し合う機会を持ち取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室には鍵は付いていない。自由に外出して頂くことを基本としているため、生活時間帯に玄関は施錠していない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中はホールには必ず職員がおり、利用者さんの所在や様子を確認し、夜間は夜勤者が時間を決めて見守り・確認し、プライバシーに配慮しながら様子の把握に努めている。夜間時に物音がしたり、起床時にはすぐに対応し、安全に過ごして頂けるよう配慮している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	注意の必要な物品は、判断の中で置き場所を安全な所に移す対応をしている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	日々変化する一人ひとりの状態を把握する事で、起こる可能性のある事故の予測をし事故防止に繋げている。また、「社内事故報告書」を回覧・会議等で検討し、再発を防ぐよう努めている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	「緊急対応マニュアル」を作成し、各ユニットに設置、職員の周知を図っている。消防の訓練は受けている職員もいるが全員ではない。	○	人数確認でき次第、消防が指導をしに来て頂けるとの事なので早急に依頼する。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	マニュアルを作成し、年に1度利用者さんと共に消防職員立ち合いの避難訓練を行っている。近所の方にも火災時等の協力を日頃からお願いしている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	安全を考えながら、その方のしたい事をして頂く、むやみに止めないを第一に考え対応している。そのために起こりうるリスクに関しては、あらかじめ家族との話し合いを持ち理解して頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	早期発見を第一とし、小さな変化を見逃さないようにしている。異変があれば主治医に連絡を取り、指示を受け速やかに対応するよう努めている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬ファイルの作成や処方箋のコピーを、職員が確認しやすい場所に保管し内容を把握出来るようにしている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	個別のアセスメントシートで排便チェックをし、会議・申し送りの中で、飲食物の工夫や運動について話し合っ、利用者酸に働きかけるように取り組んでいる。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後のうがいの声かけを行い、力に応じて職員が見守りや介助をしている。就寝前には義歯の洗浄・消毒をしている。		必要であるときは歯科の往診を受けている。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分の摂取状況を毎日記録している。個々の体調や疾病に合わせた食事や水分量を主治医と相談し支援している。正確なカロリー計算はしていない。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)	マニュアルを作成し、職員への周知、予防に努めている。		保健所の係りの方に指導に来て頂き、勉強会を開いた。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板・包丁・箸・布巾等は毎日消毒している。冷蔵庫の点検・清掃、食材の鮮度の確認と調理器具、水周りの清潔を保つよう努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前にベンチ・テーブル・プランターを置き、いつでも座って話せるような場所作りをしている。		ジュースの自動販売機があり、ジュースを買いに立ち寄る方々が話しかけてくださることもある。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	室内に花を飾ったり観葉植物・、日めくりカレンダー等を置いて生活感を出す工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下や玄関に椅子を置き工夫している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時にご本人・ご家族と相談し、使い慣れた物を自由に置いて頂き、本人が居心地良く過ごせるように努めている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	状況に応じて窓を開け喚起したり、温度や湿度を測定し快適な室内になるように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>段差のないフロアで躓いたりしないよう配慮している。手摺りを設置し職員の見守りの中、安全にかつ出来るだけ自立した生活が送れるように支援している。歩ける方は常に階段の昇降をを促し、その際職員は注意深く見守っている。</p>	
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>出来ることはして頂き、出来ないところを手助けするという考えを基本とし、混乱や失敗を防ぎつつ、生活の中で持っている力を生かせる配慮をしている。</p>	
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>建物の周りには花を植えており、利用者さんがお世話をしてくれている。</p>	

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> ②家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>○①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ○②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ○②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ○②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ○②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
 1日の中で利用者さんが心から笑える時間を少しでも増やしたい。ご本人にとって大きな楽しみ大きな喜びを見つけ、その実現に向かって共に努力、支援していきたいと職員は常に考えている。